

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地域の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。



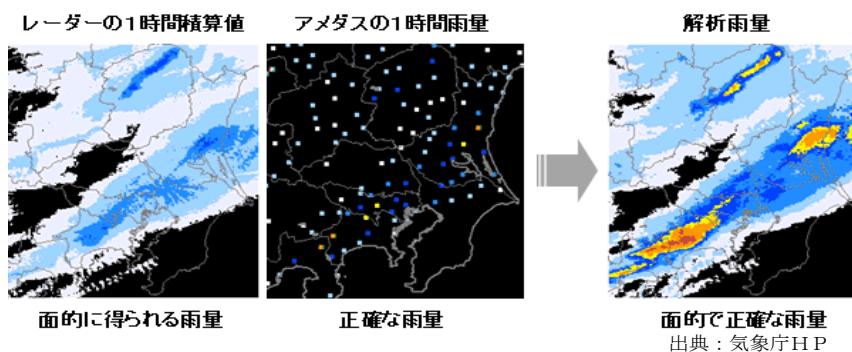
Yoshiaki Yano

雨の監視網 疎にして漏らさず

大雨のニュースなどで、どこそどこで何ミリの雨が降りましたと報じられることがあります。では、雨量計が設置されていない地域も含め、雨量はどのように監視され、気象防災情報に活かされているのでしょうか。今回はこの現状を説明させていただくことにしました。

雨量計では地上に降っている雨量を正確に測ることができますが、雨量計の設置は、さほど密ではなく、その地点の雨量しか測れません。一方、気象レーダーでは、発射された電波が雨粒によって反射してくる電波の強度を処理して、上空にある雨粒の分布を、広い範囲にわたり連続的に遠隔測定できます。しかし、地上に降る雨量そのものは測れません。

この両者の長所を生かし短所を補うため、雨量計による観測値と、気象レーダーが捉える雨粒の分布を組み合わせることで、雨量計が設置されていない地域の雨量を、より正確に



捉えることができます。この仕組みを用いて1時間の雨量として作成されたものを“解析雨量”と呼ばれています。馴染みのない硬い名称なので、「レーダーの解析によると、〇〇市では1時間に90ミリの猛烈な雨

が降りました」などと報じられることもあります。解析雨量の全国版は、1km四方の細かさで算出され、速報版も含め10分毎に作成され、気象庁ホームページの「今後の雨」で15時間先までの予測も含め、ご覧いただけますのでご活用いただければと思います。

“解析雨量”算出に用いられている気象レーダーの数は全国で、気象庁20基、国土交通省26基で、雨量計の数は、気象庁(アメダス)約1300地点、国土交通省約3200地点、都道府県5400地点、計約9,900地点です。葛飾区周辺の雨量計は図のとおりで、区内では東京都(水道局)3地点、国土交通省(建設局)2地点があります。

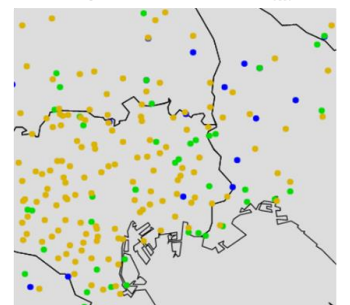
精度の高い雨量分布情報である解析雨量は、雨の監視にはもちろん、都内で100ミリ以上の雨が降った時に発表される“記録的短時間大雨情報”にも、土砂災害・浸水・洪水の災害発生の危険度を示す指数の算出などにも広く利用されています。

ご安心下さい。一見、雨の観測網の疎密は“疎(そ)”に見えますが、局地的大雨(ゲリラ豪雨)をも漏らさず捉えられています。

“今後の雨”
は右からご
覧下さい。



解析雨量に用いられている
葛飾区周辺の雨量観測地点



令和4年9月9日 東京管区気象台
危機管理課発行

問い合わせ先
危機管理課災害対策係 電話 2274